

27

令和7年8月

岩手大学教職大学院



NEWS Letter

岩手大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻



「教育実践研究の成果」を更新して公開中
教職大学院ホームページにてご覧いただけます!

<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学大学院教育学研究科研究年報
オンラインISSN 2432-924X

- 山本美・大谷哲弘 (2025) 不登校児童生徒を支援する教師のためのコンサルテーションの展開
- 中村偉輔・佐々木全・佐藤信 (2025) 特別支援学校の作業学習における補助具の開発にかかる教員の内的プロセス 他13編掲載、教育学研究科研究年報 第9巻



問合先: 岩手大学教育学部

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edujim@iwate-u.ac.jp URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

専門実習を終えて

マネジメント力開発プログラム
現職 M2 土川 純子



総合教育センターと県教育委員会での実習を通じて、教育行政の実情を学ぶと同時に、岩手県の教育の方向性について深く考える機会となりました。初任者研修の参観では、学習指導要領に基づいた授業づくりを進める様子に触れ、教育の原点を改めて見つめ直すことができました。各所で学びが結びつき、教育に携わる責任の重さと意義を再認識した一日となりました。



授業力開発プログラム
学卒 M2 伊藤 颯希

専門実習も2年目に入り、環境に慣れてきた中で、「来年には教員として働くこと」を見据え、現場の先生方とのコミュニケーションを基にした参観や教材研究などに取り組むことができました。

また、教育実践研究を通して、「理論と実践の融合」をこれまで以上に意識するとともに、高度な専門性と実践力が身に付いてきていると実感しています。

教育実践研究・中間発表会

中間発表会に向けて



特別支援教育力開発プログラム
現職 M2 及川 洋

中間発表会までの私の研究成果は、研究テーマ「知的障害特別支援学校における各教科等の資質・能力と情報活用能力の育成を両立する授業づくりの要領」の第1段階として、「授業づくりの要領」を構想し、資質・能力と情報活用能力の育成を両立する授業を促進するためのツールを開発しました。中間発表会でいただいたご意見・ご指導を生かし、今後は最終発表に向けて、開発したツールを実際の教育実践でどのように活用できるか、具体的な方法や有効性について明らかにしていく予定です。

中間発表会に向けて



授業力開発プログラム
学卒 M2 石川 百杜巴

私は、体育授業中に生徒がどのようなことを話しているのか、それがゲームパフォーマンスとどのような関係にあるのかを研究しています。あらたな音声認識ソフトを導入するなど、より精度の高い分析を行うことができましたように工夫しました。また、数名の生徒に焦点を当て、細部にわたる分析に取り組みました。中間発表では多くのご指導ご意見をいただき、さらに研究を発展させていきたいです。

教育学研究科教員 メッセージ

研究者教員 宮川 洋一

岩手大学は、「令和6年度 大学教育再生戦略推進費 デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業～X(クロス)プログラム～」に採択されました。この事業は、特に高度専門職人材の養成が求められる教職大学院にて「教育実践学と情報学とを融合させる教育プログラム」を、行政・民間企業と共同開発・実践することを通して「高度な教育実践力と数理・データサイエンス、AIに係る素養を兼ね備えた教員の育成」に取り組むことです。

先の見えない変化の激しい時代を生きる児童生徒を指導する教員が、時代の変化や価値観の変化、社会の変化や求められる人材育成に無頓着であってはなりません。生成AIが驚異的に進展する中、岩手大学大学院教育学研究科は、令和8年度より教育実践学と情報学とをクロスさせる教育プログラムを新たに構築し、未来を切り拓く児童生徒の育成ができる高度な教員の養成・研修に乗り出します。どうぞご期待ください。

マネジメント力開発プログラム
現職 M1 菅原 真



授業力開発実習を通しての気づき



授業力開発プログラム
学卒 M1 杉山 夢香

個別最適な学びと協働的な学びの具体はどうあればよいのか、毎週の実習における授業実践を通して学んでいます。授業実践を行うにあたっては、実務家の先生方や協力校の先生方から助言や指導をいただき、様々な気づきや学びのある時間となっています。これまでの自分の指導を振り返るとともに、大学院での学びを学校現場で実践できる貴重な時間となっています。

配属校で毎週のように授業をさせていただく中で、「子どもをどう捉えるか」が授業づくりに大きく影響すること、また、教科の指導だけでなく、子ども理解の深まりが授業力の土台になることを実感しました。うまくいかなかった場面にこそ学びが詰まっていて、教師としての自分自身の在り方を考えるきっかけとなった時間でした。



「ニューズレター」の最新号とバックナンバーは、こちらから
<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

「岩手大学大学院教育学研究科研究年報」は、こちらから
<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/shoukai-2/seika>

「岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業 教育実践研究論文集」は、こちらから
<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/kenkyuu-2/gp/>

「教育実践・学校安全学研究開発センター」は、こちらから
<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/huzoku/jsw/>